

宮崎国際大学 教育学部ニュースレター

eラーニングシステムの導入について

教育学部長 福田 亘博



教育学部では、平成26年度学部設置時に、教育特色として「英語力向上」を掲げました。これは、本学国際教養学部における長年の英語によるリベラルアーツ教育において蓄積された英語教育の伝統を教育学部においても承継すること及び2020（平成32）年度より小学校において英語が教科化されることに対応するためです。

さて、教育学部がスタートして2年が経ちました。その間、学生の英語力の向上はTOEICの結果で追跡してきました。国際教養学部における英語力が学年進行に伴い着実にアップするのに比べ教育学部のそれはかなり低いことは明らかです。理由として、国際教養学部における授業はほとんどが英語で行われるのに比べ、教育学部のそれは日本語で行われますので、当然のことでしょう。しかし、教育学部として、教育特色として掲げるからには現状のままにしておく訳にはいきません。改善する必要があります。我が国における英語教育の問題として、英語の「読解・文法」に偏り、「聞く・話す」が少ないことが以前より指摘されてきました。本学では、国内の大学を中心に455機関に導入されているALC Net Academy Next総合英語トレーニング（eラーニング）システムを平成28年度より導入しました。これは「読む・書く・聞く・話す」4技能に「語彙と文法」を加えた「6技能」を追加させた統合ソフトです。学生諸君はスマートフォンやタブレットPCなどでいつでもどこからでもアクセスできるように設定してあります。さらに、これらのeラーニングは各ステップごとに英語力を確認するためのテストが組み込まれているため、自分の英語力を確認することができるなど至れり尽くせりです。教育学部ではこれらのeラーニングを英語授業とも連携させ、より教育効果が上がるようにしています。学生諸君が研鑽を積み、卒業時には英語力について学校現場の期待に沿えるレベルに達していることを期待しています。

目次

eラーニングシステムの導入について.....	1
英語に強い教員を目指す..	1
新校舎での授業が始まりました	
学生と一緒に作る理科室	
理科室づくりを行って..	2
教育学部教員から.....	2
平成28年度の抱負	
1年生・2年生・3年生...	3
クラブ紹介.....	3
ジョイントコンサートの成果	
.....	4
子どものあそび場展に参加して	
.....	4
平成28年度 教員採用試験合格	
支援プログラム.....	4

ハイライト

教育学部では国際教養学部と同じeラーニングシステムを導入し、英語力向上のための学習環境を一層整備しています。

英語に強い教員を目指す

教育学部2年 山崎 あこ（日向学院高等学校出身）

私はeラーニングを通して、元々好きだった英語がより身近になり、英語をもっと活用したいと思えるようになりました。

例えばALCシステムでは、英文を繰り返し聞いては真似をすることで、細やかな発音やイントネーションを身に付けることができます。特に、自分の発音を録音して聞くことができるため、どこが間違っているかが明確に分かり、さらに上手に話せるようになるという意欲も高まります。また、M-readerでは、英語の教材を毎日一冊ずつ読み続けることで、自然と単語や文法を習得することができています。これらのeラーニングを続けることで、読む力、書く力、聞く力、話す力がいつの間にか育まれていると感じました。TOEICのスコアが予想以上に伸びていたことも、その成果の現れです。これからもeラーニングを継続しながら、さらにTOEICのスコアをばし、自信をつけていきたいです。そして、子どものペースに合わせて英語を使いこなし、子どもたちが「英語って楽しい!」「英語って面白い!」と思えるような授業ができるよう、英語力を身に付けたいと思っています。



ALC Net Academy Next=ALCシステム：スマートフォンやタブレットPCからアクセスでき、各学生が自分のペースで学ぶことができる

M-reader：語学学習における多読学習法

TOEIC：日常生活やビジネスにおける生きた英語の力を測定する、世界共通のテスト

eラーニング：パソコンのソフトを使って学ぶシステム

新校舎での授業が始まりました

学生と一緒に作る理科室

教育学部助教 坂倉 真衣（理科担当）

新校舎での授業が始まり、早いもので三ヶ月近くが経ちました。私は、この4月に着任しましたので、新校舎の完成と同時に宮崎国際大学に来たことになります。着任してすぐ、真新しい理科室・そこで使われるのを待つたくさんの教材を前に、これから学生たちとこの場所で行う理科授業のことを想像してわくわくとしたことをよく覚えています。

理科室づくりに立ち会えることは現職の先生にとってもそうそうない経験です。私が一人で理科室を整備するのではなく、学生と一緒に理科室を作り、そこでの身体を通したかけがえのない学びを共有できたらという思いで、理科室での授業は「理科室づくり」から始めました。初めてこの理科室を使うことになった一期生の学生たちは皆、とてもきびきびと一生懸命に作業をしてくれました。

理科では特に「実感を伴った理解」が大事であるとされます。自分の眼で見、感じ、体を通して学び取ったことは、確かに生活を豊かにする知恵として、将来小学校教員としても、社会で生きる一人の人間としてもとても大切なものになっていくのだと思います。

「一緒に作る」ことから始まったこの理科室で、これからの授業でもたくさんの「活きた学び」が生まれることがたのしみです。

理科室づくりを行って

理科係：古谷 一馬、村場 亮太、奥津 愛花里、太田原 真琴、田爪 大聖

私たちは現場の先生でもめったに経験することのない「理科室づくり」という貴重な体験をしました。新校舎での授業のスタートはまさに理科の先生の活動そのものでした。様々な実験器具などを対象学年ごとに分けて、使いやすいようにしまっていく。どのように使うのか分からない教材があったときにはその都度、互いに教えあったり教科書を読んだりして考えました。実際に教壇に立つことになる私たちにとっては、教壇に立つ前に経験したくても経験できない貴重なものでした。さらに今回は新校舎ということで、前例のないゼロからのスタートになりました。これから新校舎での授業が進んでいきますが、私たちにとって得るものがたくさんある教室になると思います。この教室で学んだこと、これから学ぶことを教壇の上でも生かしたいです。



坂倉助教（前列中央）と理科係



学生ラウンジで語り合う

教育学部教員から

大学は自らが主体的に学ぶ場所！ 教育学部准教授 山下 智也

今年の4月に教育学部に着任した山下智也です。専攻は心理学で、子どもの遊びや居場所をキーワードに実践&研究を重ねています。特に“子どもが主体として生きるために大人はどのように関わるか”という問いは、私が一生向き合っていく永遠のテーマです。そんなテーマを自ら発見する契機となったのは、大学時代の教授の一言でした。

「大学生なんだから、授業も、図書館も、大学の先生でさえも、自分がうまく『つかう』ことが大事だよ。」
ハッとさせられました。大学は「教えてもらう場所」ではなく『自らが主体的に学ぶ場所』。「先生をつかう」というとおこがましく響きますが、要は、学びの主体はあくまで自分自身。自らが主体的に学ぶ中で、先生や本から知識や知恵を拝借しながら、歩むべき道を切り開く。受け身になり過ぎていた自分を恥じると同時に、それからは、自分が何を学びたいのか、どう生きていきたいのかを自問自答する日々のスタートです。結果として私は、素敵なテーマに巡り合えました。

今、みなさんは、自ら主体的に学ぶことができますか？みなさんが主体的に研究室にやってくるのを、心待ちにしています。

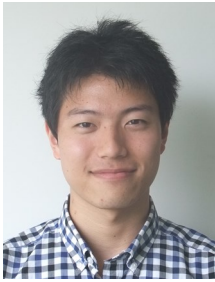
(担当科目：心理学概論・教育心理学・保育の心理学)



山下のオフィス(322)へ気軽にどうぞ！

苦手意識を自信に

教育学部1年 岡田 尚輝
(大分県立大分鶴崎高等学校出身)



私は、小学校教諭として子どもたちに実りある指導を行うために、「子ども理解のための知識」や「指導のポイントを見抜く着眼点」を身に付けるという目標を持って、宮崎国際大学に入学しました。実際に授業を受けてみると、この目標を達成するための学びが多く、とても充実しています。

ただ、私は英語の文法に関して苦手意識があります。英語を話すこと・聞くことは好きなのですが、書くことに自信がありません。そこで今は、自ら英文を読んで訳したり、それを参考に英文を書いたり、毎日英語に触れる努力をしています。この努力を継続することで、苦手意識を自信に変え、「英語に強い先生」「小学生と英語を楽しむことのできる先生」になりたいと思っています。

教員採用試験はあっという間に来るので、一日一日を無駄にせず、これらの目標を念頭に置いて、有意義な4年間を過ごしていきたいです。

学外での学びを将来に活かす

教育学部2年 山下 采花
(宮崎県立小林高等学校出身)



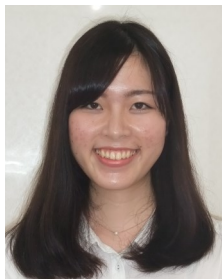
私はこの一年間、保育関連のボランティアや学外活動に関わってきました。

保育関連のボランティアとして、清武みどり幼稚園や保育フェスティバルで子どもと遊んだり、宮崎市清武地域子育て支援センターで絵本の読み聞かせやパネルシアターをしたりした経験が挙げられます。「子どもに合わせて実践することの大切さ」等、大学の授業だけでは味わえない学びを得ることができました。友人とともに、牛や豚の世話をする農業体験や、猪八重溪谷での自然体験にも参加しました。最初は遊びだったのですが、例えばある葉の裏に枝で文字が描けることを発見したときに「これを保育に生かしたい」と思ったことを今でも覚えています。学外活動にも保育に生かせるヒントが隠されていることに気づかされました。

もちろん体験だけでなく、知識も身に付けなければなりません。授業の予習・復習をしっかりと行い、勉学に励みながら、学外での学びを将来に生かしたいと思います。

今を輝かせ、未来への挑戦

教育学部3年 橋口 紗央理
(宮崎県立都城西高等学校出身)



大学に入学して3年目になりました。3年前の私は、ただ何となく講義を受けていたり、あまり勉強に身が入っていなかったりすることもありました。しかし、ボランティア活動などにも参加をしている友人たちを見てこのままではいけないと思うようになりました。頑張っている友人たちに感化され、私も中学まで続けていた書道を去年から再び始めることにしました。授業や勉強はもちろん自分の特技を伸ばすことにも時間を使えるようになり、より有意義な生活を送れるようになったことが1番大きく変わったことだと思います。

大学生活も折り返し地点を過ぎ、これからは実習や就活など慌ただしく毎日が過ぎていくと思います。教員になるという自分の夢をいつも心に留め、少しずつでも近づけるよう毎日を大切に過ごしたいです。

クラブ紹介

宮崎国際大学バレーボールクラブ

バレーボールクラブ代表

教育学部3年 太田原 真琴 (宮崎県立宮崎南高等学校出身)



私たちバレーボールクラブは男女混合で週に3回程活動しています。バレーボールクラブのメンバーは、性別、学年を問わず仲が良く、いつも楽しく活動しています。

最近では新一年生の加入により、人数も増えました。新一年生には初心者が多いため、ゲームだけでなく、レシーブやスパイク等の基礎練習も取り入れ、技術の向上を目指しています。まだルールが曖昧なメンバーもいて、技術もまだまだですが、今後宮崎大学や宮崎産業経営大学のサークルとの練習試合を予定しています。また数年以内には県内の大会出場も目指しています。これからも目標に向かって、

みんなでたのしくバレーボールに取り組んでいきたいです。

「宮崎国際大学ジョイントコンサート」から学んだこと



「宮崎国際大学ジョイントコンサート」とは、本学教育学部教授の田中幸子先生が企画したコンサートで、平成28年3月6日に開催されました。私は、教育学部の履修科目「子どもの音楽活動」を受講しており、この授業の中で、音楽発表会で歌われているような曲を合唱することを通して児童の歌唱等の指導法について学んでいます。授業で学んできたことの集大成として、コンサートに臨みました。

教育学部3年 黒岩 光貴
(宮崎県立宮崎西高等学校出身)



黒岩さんは合唱をするほか、MCとして、合唱曲やこのコンサートの意義について観客に紹介しました。

コンサートに参加をして、一番よかったことは本番に向けての緊張感や無事にやりきった後の達成感など人前で歌う児童の気持ちが理解できたことです。合唱の指導をする立場になったら、歌詞の意味や強弱などを指導し、合唱をすることの楽しさや楽しさについても児童に感じてもらいたいと強く思いました。この経験を音楽科の学習指導案づくりや模擬授業など、様々な場面で生かしていきたいです。

「子どものあそび場展」に参加して

教育学部2年 米澤 葉 (宮崎学園高等学校出身)

「子どものあそび場展」とは、本学教育学部准教授の守川美輪先生が企画した手づくり玩具と木版画の展示会で、教育学部学生6名がその運営に参加し、シアターや遊びの援助などを行いました。私は子どもたちとの3日間の関わりを通して、私なりの目標を見出すことができました。



米澤さんは赤いバスを持って演じています。

一つ目は「子ども一人ひとりの気持ちに応えること」です。あそび場展では、一人で次々と言葉を発しながらスムーズに遊んでいる子どももいれば、不安そうに周囲を見回しながら遊びになかなか参加できない子どももいました。子どもが不安そうにしていたら、その子が行う言動に興味を抱き、その子を笑顔で受け入れていきたいと思えます。そうすることで、子どもは安心して、自分のしたい遊びを自由に行うことができるはずです。

二つ目は「私自身が緊張し過ぎないこと」です。手遊びの際、私は少し慌ててしまい、子どもたちを戸惑わせてしまいました。もっと自分自身に自信をもち、伝えたいことを事前に明確にした上で、子どもたちの前に立ちたいと思います。

これらの目標を意識しながら、今後も子どもたちと関わる活動に積極的に参加していきたいと思っています。

平成28年度 教員採用試験合格支援プログラム

3年生	教員採用試験対策講座(応用Ⅰ)	前期から専門科目及び教職対策試験(過去問題)を16回実施
	特別対策合宿B	9月27日(火)~29日(木)2泊3日実施 模擬授業・場面指導・集団討論・講話・小論文・模擬試験・水泳等
2年生	教員採用試験対策講座(基礎Ⅱ)	前期から専門科目及び教職対策講座を12回実施
	特別対策合宿A	9月27日(火)~29日(木)2泊3日実施 対策講座・面接・小論文・新規採用教員の講話・模擬試験・水泳等
1年生	教員採用試験対策講座(基礎Ⅰ)	後期から専門科目及び教職対策講座を12回実施

オープンキャンパス開催! 7月17日(日)、8月21日(日) 10:00~15:00 場所: 本学
学部紹介・体験授業・学食ランチ体験・入試相談会など



宮崎国際大学

国際教養学部 比較文化学科

教育学部 児童教育学科

〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地

電話: 0985-85-5931 FAX: 0985-84-3396

ホームページ: <http://www.mic.ac.jp>



大学教育再生加速プログラム